

## IV 問題点についてのフジテレビの回答

当委員会は、今回の「ハッピー筋斗雲」問題の審議を進める過程で、問題点に関わる事項について、Aさん及び関係者へのヒアリング、フジテレビへの質問・問い合わせを数回にわたって行った。ここでは、問題点についてのフジテレビの回答を提示しておきたい。

### [スピリチュアルカウンセラーありきの企画・構成について]

回答 ○ 5月中旬、「FNS 27時間テレビ」の今年のテーマが「日本全国、みんななまかだ！」に決定し、そのコンセプトの下、「日本で、悩んでいる人や困っている人・・・略・・・」という企画が持ち上がりました。その際、演出要素として、「サプライズ」要素も加え、「幸せのどっきり」＝「ハッピーサプライズ」企画ということで決定しました。

5月下旬から、・・・略・・・知られざる逸話を日本全国にリサーチをかけたところ、6月に入って、その候補の一人として、Aさんが行っている「十郎りんご」の活動の話があがってきました。

・・・略・・・

同じく、5月下旬ごろ、・・・略・・・所謂「見てみたい！」と思わせる有名人候補を数名想定した中に、江原啓之氏もいました。

「ハッピー筋斗雲」の企画段階で、江原氏には、一度声をかけさせていただきましたが、・・・略・・・あくまでも「具体的な企画内容やスケジュール次第」とのお返事でした。

企画候補とキャスト候補が挙がる中、どの組み合わせが番組の目指す企画意図を具現化できるかを検討した際、「Aさんは、亡くなったお父様の遺志を引き継いで、りんご園を続けている」旨の情報が入ったため、江原氏の出演に適した企画になるかもしれないという発想の下、リサーチと併行し、6月上旬、江原氏に対して正式な出演依頼とともにご提案に伺いました。

(2007年11月26日付)

- 江原啓之氏にAさんの事や、Aさんの活動に関しての情報を最初にお伝えしたのは6月上旬。江原氏の事務所に赴き、フジテレビ編成部のスタッフが直接ご本人にお伝えし、その場にはディレクターが同席しておりました。その際の具体的な情報としましては、Aさんの「十郎りんご」ホームページの資料をお持ちし、「このりんご園は亡きお父様から引き継いだもの」である旨をお伝えし、「素晴らしい活動をされていますが、この活動をお父様

がどう思われているのか、また、Aさんに対してメッセージがあったら教えて欲しい」旨、依頼しました。(2007年11月26日付)

### [スピリチュアルを前提としたAさんの生活状況「経営難」の断定]

回答 ○ 企画を進める中で、従業員のBさん、Cさんからは、「美容院のお金をりんごに費やしてしまっていて、このままだとお店が続けられないかもしれない」「長いつきあいだから良くわかる。Aさんもわかっている。気丈にふるまっているつもりだが、元気がなく悩んでいる」旨の発言を聞き取っていました。

また、念のため、Aさんご本人から情報の確認をするべく、Cさんから『自分のいとこのフリーライター』と架空の肩書きで紹介していただいた番組ディレクターが、Aさんご本人に事前取材をしました。その際、Aさんご本人からも「りんごを続けるのに、正直お金がなく苦しい。・・略・・今後も続けられるか不安に思って悩んでいる」旨のお話があり、「いつも一人で悩んでいる。お父さんの十三回忌だし、りんご園をつぶすことになったら父はどう思うか心配」といったお話もありました。

(・・以上のような会話・・)等を総合し、番組構成上、Aさんの状況を視聴者に簡潔に判り易くお伝えするにあたり、「りんごを無償で送ることで、美容院の経営が困難に」というスーパー&ナレーションでまとめる判断をした次第です。

バラエティー番組として、ご本人の気持ちのあり様を表現していくことを意図して制作した企画の為、美容院の経営状態を客観的なデータで裏づけるまでの調査はしておりませんでした。(2007年11月26日付)

- しかしながら、番組側が取材に基づいて「経営困難」と言う表現を用いたものの、その経営状態、経済状態に関して共通の認識をご本人と構築すべきでした。本来、Aさんの活動を日本全国に紹介し、Aさんを元気づける事を目的にした企画でありましたので、番組が「経営困難」と表現することでご本人が不快に思われた状況については本意ではありません。深くお詫び申し上げます。(2007年11月26日付)

註：従業員はこの点について、りんごにお金を使っていることはそうだと思うが、だからと言って美容院は“経営難”ではない。私たちはもらうべき給料はきっちりもらっている、と反論している。(2007年11月26日付)

## [放送の公共性とスピリチュアルカウンセラーのショーアップ]

回答 ○ 「スピリチュアル・カウンセラー」は、江原啓之氏が、肩書きとして名乗っているものであり、江原啓之氏がメディアに登場する際に必ず使用する呼称ですので、今回も使用させていただきました。霊的、精神的な視点からカウンセリングを行うカウンセラーであると認識しております。

「スピリチュアル・サプライズ」というのは、スピリチュアルカウンセラーである江原啓之氏が出演して行われるサプライズ企画である事をわかり易く簡潔に視聴者にお伝えするために、使用しました。

(2007年11月26日付)

- カウンセリングは、江原氏が感じ取った、精神的な感覚や考えから発せられるアドバイスだと認識しており、信憑性に関しては、カウンセリングを受けた当事者個人の問題と考え、カウンセリング後に当事者からクレームや問題提起を受けた場合は放送をとりやめる方針をとりました。しかしながら一切のクレームや注文をいただかなかった為、放送に至りました。
- 江原氏の、所謂「霊視」と言われるものを基にしたコメント部分に関しては、目に見えるものではなく、当事者しか認識し得ない部分ですので、番組としては放送基準を尊重し、断定及び肯定を避けるべく、「～見つめていたという」「～救ってくれるという」等、ナレーションを伝聞調にしたり、スーパーテロップの最後に「？」を入れるなど、適宜配慮いたしました。

(2007年11月26日付)

註：Aさんは、江原氏のアドバイスに対して、「ご飯は食べられればそれで良いし、そんな贅沢は要りません」「私がお金持ちになったら、人の心を打つような手紙は書けません」等々と反論したというが、その部分はカットされている。(2007年11月2日付)

- 最終的にはご本人も、「江原さんが心配してくれたように、絶対にまたりんごを作るためにお店をつぶさないで、これを教訓に真剣に頑張ります」とおっしゃっていた為、事実と違う為の反論という認識は全くもちませんでした。・・・略・・・その為、番組としましては、あくまでもカウンセリングの過程で交わされた自然な会話のやりとりと認識し、限られた放送時間の関係上、それを割愛させていただきましたが、Aさんの反論を番組側が恣意的に封殺するため割愛したことは一切ありません。(2007年11月26日付)